

会議の概要

令和元年度 第9回 おおたま学園コミュニティ・スクール委員会

兼 ○ 大山幼稚園学校運営協議会 ○ 玉井幼稚園学校運営協議会
○ 大山小学校学校運営協議会 ○ 玉井小学校学校運営協議会
○ 大玉中学校学校運営協議会

日 時：令和2年2月25日（火）18:30～20:30

場 所：改善センター2階 農事研修室・農事相談室

（進行 指導主事 斎藤一範）

1 開会のことば （おおたま学園CS委員会副会長 大山 明美）

これから第9回コミュニティ・スクール（以下CSと略記）委員会を始めます。よろしくお願いします。

2 教育長あいさつ （大玉村教育委員会教育長 佐藤 吉郎）

- 皆さんこんばんは。CS委員会の反省等を出していただきありがとうございました。資料がかなり多くなったので、事前に配付させていただいた。後ほど担当より説明があるが、今後も反省等を生かして進めていきたいと考えている。今日は最後の委員会となり、各校・園の学校関係者評価結果の説明、令和2年度経営・運営方針の説明と承認があるので、協議をよろしくお願いいたします。
- 今年度は、従来の教育フォーラムの名称を変えて「コミュニティ広場」として実施した。第1部は小・中学生の発表で、第2部はフリートークであったが、フリートークに小・中学生がすんなりと参加できるのか不安だったが、アンケートの結果を見てみると、子どもたちが「満足した」という反省があって良かったと思った。
- 今日は来年度についての提案があるが、私からも若干説明したい。平成2年度コミュニティ・スクール委員会の基本方針（案）の最初に「地域学校協働本部と連携・協働した教育活動を推進し、地域と共に歩む学校の実現、地域コミュニティの活性化等を目指す」を付け加えた。
- 来年度はCS委員の改選はないので4月当初の役員会は計画していない。今日、案を検討していただき、もう一度整理が必要となった場合には入れたいと思っている。
- 「他市町村のCS委員会の様子を参観したい。」との希望があったが、来年度は2月に栃木市で全国CS研究大会があるので、そちらにCS委員会で参加するよう計画した。実施月日が分かり次第お知らせしたい。
- CSと地域学校協働活動の関係は、これまで「車の両輪」というふうに例えられてきた。1月28日に開催された福島県地域学校協働活動事業推進フォーラムの基調講演で、文科省の廣田企画官は、関係を自転車の前輪と後輪に例え、方向性を決定する前輪をCS、推進する後輪を地域学校協働活動と説明した。資料のようなイメージである。
- 新型コロナウイルス感染症の流行により、全国的に様々な影響、動きが出てきている。卒業証書授与式や入学式、修学旅行等慎重に検討してしていきたい。

3 おおたま学園CS委員会会長あいさつ （CS委員会会長 伊藤 和弥）

- 改めましてお晩でございます。本日は第9回最後の委員会と言うことで、熟議はないが、大切な「令和2年度学校経営・運営方針の承認」があるので、意見交換を活発にお願いしたい。
- 2月1日開催の「コミュニティ広場」には200人以上の出席があつて、盛会の内に実施できた。CS委員、先生方、教育委員会等みなさんのご協力のお陰であると思っている。来年に向けても、今年のやり方がうまくいったので、その都度検討しながら進めていければいいと考えている。今日は短い時間ではあるが、慎重審議よろしくお願いします。

4 諸連絡 本日の日程・内容について （事務局 指導主事 斎藤 一範）

3つの協議内容について

- 令和2年度各校園の経営・運営の方針等について

- 第1回おおたまコミュニティ広場反省
- 令和2年度おおたま学園CS委員会の運営について

5 協議

(座長 CS委員会会長 伊藤 和弥)

(1) 令和2年度各校園の経営・運営の方針等について

① 学校関係者評価委員会について(学校関係者評価委員長より)

○ 大山幼稚園 (CS委員 斎藤 信一)

- 3つの重点「自ら進んで意欲的に学ぶ子の育成」「身近な人とかわろうとする子の育成」「心も体も健康な子の育成」を目指して取り組んできた。

「進んで遊ぶ子」について

- ・ 職員間の情報交換が盛んに行われており、園全体で一人一人の状況把握がよくなされている。
- ・ アンケート結果から、色々な思いをもった保護者がいることが伺える。先生だけでなく、地域も一緒になって、保護者が共に育っていけるようにすればいいのではないだろうか。
- ・ 自己主張が強いが相手の主張を聞くのが苦手とある。今後どのようなことを経験していけばよいのか。園児のうちから、どのようなことを言ったら人を傷つけてしまうのか気付かせて欲しい。

「なかよく遊ぶ子」について

- ・ 参観に行くと、園児たちが大きな声で駆け寄ってきて、キラキラした目で自分ができるようになったことを話しかけてきた。個人差はあるが、あいさつ運動や交流活動を通して社会性や習慣を身につけさせて欲しい。
- ・ 異学年交流や地域の方との活動、自然体験が充実している。社会性や人間性が育まれると思われる。
- ・ 集団生活の確立が大切である。年間指導計画の中で、発達に合わせて指導に当たっており、その苦勞がよく分かった。人とのふれ合いが大切であるが、入っていけない子どももいる。また、支援の手が必要な子どももいるので、みんなで育っていけるよう、指導に改善を加えながら進めていってほしい。

「元気に遊ぶ子」について

- ・ 園庭等狭いが、限りあるスペースを工夫して使っていることがよく分かった。
- ・ アンケートの結果から、家庭でやりたいことも保護者がなかなか実践できていないのが現実であることが伺える。幼稚園ですべきことと家でやるべきことを明確にし、双方で努力して子どもたちの成長を支えていければよいと考える。
- ・ 狭い敷地で先生方がいろいろと工夫しているが、それにも限界がある。小学校の遊具は小学生に合わせて作られたものであり、3歳児には合わないものが多い。遊具の設置、園庭の拡張が優先されるべきと考える。
- ・ 園児が楽しく幼稚園に来ているのがよく分かった。今後も改善を加えながら指導に当たっていただきたい。



○ 玉井幼稚園 (CS委員 佐藤 拓未)

- 令和元年度の重点目標 ①自ら考える子ども「自ら考え、進んで行動できる子ども」、②心豊かな子ども「友達と仲良くできる子ども」、③たくましい子ども「目標に向かって挑戦できる子ども」について取り組んだ。

「自ら考える子ども」について

- ・ 園児の主体性を育てる根気強い取り組みが家庭と園とで連携してなされている。

「心豊かな子ども」について

- ・ 3年保育の2年目として昨年度の反省をもとに異学年交流や地域交流に取り組み、充実してきている。

- ・ 体験活動（直売所での体験販売 etc.）、あいさつ運動への取組みがよくなされている。
- 「たくましい子ども」について

- ・ チャレンジカード（体力だけでなく“こころのチャレンジ”）を取り入れた。常日頃園生活の中で、先生方が、結果だけでなく、子どもが取り組もうとする気持ちや過程についても声かけをしたり、遊びを通した体験をしたり等している。

＜全体的に＞

- ・ 3年保育になって2年目となり、昨年度と比較すると飛躍的に園運営が改善された。
- ・ ハード面（園庭等）に限界がある中、教員が知恵を絞って連携している姿が伺えた。
- ・ 保護者との連携（情報交換等）、地域との連携（学校支援ボランティア等）を図って、「地域から求められる幼稚園」、「地域に信用してもらえる幼稚園」となるよう取り組んでいる。

○ 大山小学校（CS委員 館下 愛理）

- 2月6日（木）、5校時目に授業参観をし、その後評価委員会を実施した。

＜全体的に＞

- ・ 学校、家庭、地域の信頼関係が構築されている。
- ・ 全体的に見て、重点目標の達成に向けて、教職員全員で努力していること、学級担任だけでなく、教職員みんなで子どもたち全体を見ていると感じた。
- ・ 学校教育をさらに充実させるために、ボランティアとしての地域人材を有効に活用して欲しい。
- ・ 教員が村全体の行事等に追われ、子どもたちと向き合う時間、授業の準備などの時間がとれていない面があるのではないかと。教員ではなくて、地域（大山地区）の人材と学校との橋渡しをする（場合によっては企画・運営する、大山地区に詳しい）地域連携コーディネーターを村で雇用することも必要ではないかと。

○ 玉井小学校（CS委員 吉田 都）

- 令和元年度の重点目標 ①自ら考える子ども「主体的に学び、学んだことを活用できる子ども」、②心豊かな子ども「自分や人、ふるさとを大切にすること」、③たくましい子ども「自分の体に関心を持ち、体力向上に努める子ども」について取り組んだ。

「確かな学力の向上」について

- ・ 先生方は、子どもたち一人一人に目を向けて学力向上に力を入れ、成果を上げている。
- ・ 授業にグループ学習を取り入れることにより、コミュニケーション能力が向上している。
- ・ 読書についてアンケートの結果を見ると、子ども、保護者、教職員の評価のギャップが大きい。家庭でどんな本を読んだか、どれぐらいの時間読んだかということよりも、早いうちから読書に対する興味を高めることが大事である。（小学生になってからはなかなか難しい。）

「豊かな人間性や社会性の向上」について

- ・ 総合的な学習の時間等を活用し、村内の施設・商店について調べたり、フォレストパークや直売所等への見学学習を行ったりすることで、直接地域の人とふれ合い、村を知ることができている。おおたまコミュニティ広場に参加し、村について調査・研究を行ったことも子どもたちだけでなく地域にとってもよい機会になったと思われる。今後も「自分や人、ふるさとを大切にすること」について、一人一人取り組んでほしい。

「健康の保持・増進、体力の向上」について

- ・ 地域の方と子どもたちの関わりが、学校の授業や行事等を通して見られた。
- ・ 子どもたちは、学校の授業で学んだことだけでなく、地域、保護者から学ぶ場面が多くあって、こうした学習がやがて将来の大玉村を背負う一人の大人として成長できるものと思われる。（恵まれた環境である）

○ 大玉中学校（CS委員 國分 純一）

- 5つの重点目標（①全教職員による協働的・組織的な取組 ②生徒とのふれあいを大切にした豊かな心や創造性の育成 ③生徒主体の授業を展開した確かな学力の向上 ④きめ細かな心配りによる健康の保持増進と体力の向上 ⑤社会に開かれた教育課程の実現と共に歩む学校づくりの推進）を掲げ、その達成のために、先生方が協働し、組織的に取り組んできた。

<全体的に>

- ・ 学校評価に関するアンケート（保護者等）の分析を丁寧に行い、その結果を的確に捉え改善を図っている。
- ・ 校内研究（教科研究、授業研究）に力を入れており、共同研究物が県に出品された。
- ・ 環境教育や地域学校協働活動（コミュニティ・フェスタ）等の打合せで中学校を訪れる機会が多いが、先生方とのコミュニケーションがとりやすく風通しの良い職場であると感じている。
- ・ 教職員がお互いをカバーし合っていて、ワンチームで目標の達成に向けて取り組んでいる。
- ・ おおたまコミュニティ広場で、中学生が自分の意見を率直に話していた。そのことから考えても、日頃の学習環境がとても良いと言える。
- ・ 次年度も今年度同様に教育活動に取り組んでいっていただきたい。

② 令和2年度各校園の経営・運営の方針説明（各校・園より）

【資料：各校・園 令和2年度学校運営の方針（学校運営ビジョン）】

○ 大山幼稚園

（副園長 後藤 弥和子）

- 令和2年度の幼稚園教育指導の重点、村の重点事項、また、学校関係者評価の結果等を取り入れて経営・運営ビジョンを作成した。
- 教育目標は大山小学校と同様で『めざせ！夢に向かってがんばる子～地域と共に、自らの夢に向かって努力し、未来を拓く子どもの育成～』であり、重点目標も今年度と変わりはない。
- 主体的な遊びや活動を通して、考えたり分かたりすることの楽しさや遊びを十分に体験させるために、自ら考え、自分を試したり工夫したりする活動を位置づける。
- 教師が一人一人の子どもを見取れるように、適切な環境づくりに努める。
- 子ども同士の発見やイメージを受け止め、子ども同士をつなげたりする等遊びのコーディネートに力を入れる
- 言葉による理解や伝え合う力をつける場を設定し、自分の気持ちを主張し、友達の話も聞けるようにする。
- 教職員間の話し合いの場を適宜設けるとともに、研修にも取り組む。
- 地域とのつながりを維持し、保護者同士のつながり等を深めていけるよう努める。



○ 玉井幼稚園

（副園長 佐藤 文江）

- 経営・運営ビジョンに「保護者の願い」「目指す幼稚園像」を加えた。
- 教育目標は『自分やふるさとに誇りをもち、夢や希望に向かう子ども ・自ら考える子ども ・心豊かな子ども ・たくましい子ども』である。
- 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を加えた。
- 重点目標は前年と変わりはない。

<重点事項について>

「自ら考え、進んで行動できる子ども」

- ・ 令和2年度大玉村幼稚園教育指導の重点にあった“思考力のめばえ”を「1 主体的に活動する意欲を育てる」①～③に含ませている。（例 ③「自分で考え、判断して行動したり～」に伝えたりしていくを付け加えた。）
また、「2 遊びを創造しようとする意欲を育てる」①に「考えたり、分かたり～」を入れた。

「友達と仲良く出来る子ども」

- ・ “道徳性・規範意識のめばえ”が関係している。（1 思いやりの心を育てる①）
- ・ 学校関係者評価報告にもあったように、“異学年交流や地域の方々との交流”については継続して取り組むこととあったので入れた。

- ・ 直売所では見学や販売体験等をさせていただいた。子どもたちも看板を見に行ったり、どのようにお客さんが来てくれるのか考えたりするなど、様々な体験ができた。

「目標に向かって挑戦できる子ども」

- ・ 健康づくり、体力づくりについては、第3者評価において「保護者は幼稚園をとっても信頼しているようであるが、ある意味幼稚園任せになっている。幼稚園と家庭が、それぞれにすべきことを意識して取り組むべきである。」との指摘を受けたので、その点を意識して幼稚園経営・運営をしていきたい。

○ 大山小学校 (校長 舘脇 一弘)

- 学校評価関係者委員会では、学校の良い所等をたくさん聞かせていただき、とても良い時間だった。来年度に向けて頑張ろうという気持ちを起こさせていただいた。(学力向上、望ましい生活習慣、多忙化解消に向けたアイデア等)
- 令和2年度経営・運営ビジョンはモデルチェンジした。目指す学校像の最初に「子ども一人一人が主役の学校」、目指す教職員像に「子ども一人一人に寄り添う教職員」を加えた。

<重点事項について>

「進んで学習する子～自ら考えともに学び育つ子どもを育てる～」

- ・ 『「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指した授業づくり』のAは幼稚園と同じ。
「思考をコーディネートする」のところに力を入れたい。
- ・ 「学びを支える学習基盤づくり」の学習の手引きは、「何をどのくらい、どのような方法で」を明示して充実させていきたい。

「なかよく助け合う子」

- ・ 体験活動の充実のために「イ地域素材を有効に活用する」を加えた。
- ・ 生徒指導の充実のために「ア学級経営案の交流会を行う」を加えた。児童が大切にされる学級づくりを目指して、案の検討や実際の活動をみんなで見せ合う機会を設定する。

「健やかでたくましい子」

- ・ 望ましい生活習慣を身につけさせる。

- 児童…全教育活動を通した「基礎的・汎用的能力」「非認知能力」の育成をしていく。
(＝ 学校の目指す夢の実現に向かって頑張るのに欠かせない能力)
- 教師…思考のコーディネート力、学びの変容を見取る力の向上

○ 玉井小学校 (校長 小林 雄)

- 教職員と何度も話し合って「目指す学校像」を明らかにし、具体化することによってその実現に向け努力していくようにする。
- 教育目標は『自分やふるさとに誇りをもち、夢や希望に向かう子ども ・ 自ら学ぶ子ども ・ 心豊かな子ども ・ たくましい子ども』である。
- “自分と自分達マネジメント力(RVPDCAサイクル)”への取り組みは3年目になり、子どもたちは授業、委員会、運動など様々な場面や活動で意識するようになってきた。
- 「実態を把握する」→「目標を持つ」→「計画を立てる」→「実践する」→「評価する」→「改善する」といった一連の流れの中で、子どもたちには、目標を設定する力、協働して取り組む力、挑戦する力、やり抜く力などが身につくことを期待している。

<重点事項について>

「自ら学ぶ子ども」

- ・ 学習の規律を向上させる。
- ・ 子どもたちが自ら学べるような授業づくりを行う。
- ・ 学習習慣の確立

「心豊かな子ども」

- ・ 道德教育の充実に努めたい。そのために、これまでの成果を生かしながら進めていくようにする。
- ・ ふるさとにおける体験活動の充実に努める。

「たくましい子ども」

- ・ 体力・運動能力の向上 → 日常化につなげていきたい。

- ・ 健康な生活に向けた実践力の育成
- ・ 防災・放射線教育の実践

実践はしているが、子どもたちが受け身であるので、主体的に判断する力をつけていく。

- これら 3 つの重点事項を実施するために、家庭・地域との連携、生徒指導の充実、特別支援教育の充実に力を入れていきたいと思う。

○ 大玉中学校 (校長 鈴木 豊)

- 2021 年度の中学校学習指導要領の全面改訂に向け、これまで経営・運営ビジョンを改善してきたので、次年度大きく変更する部分はない。多少の変更のみ説明する。

○ 教育目標

生徒が覚えやすいよう漢字 2 文字を入れた。

自学：意欲をもって学ぶ生徒

共栄：認め合い高め合う生徒

自鍛：自ら心身を鍛える生徒

「授業の充実と学力の向上」について

- ・ 学力向上は本校の課題の一つである。分かる・できる授業の実践のために、先生方に授業力の向上を図ってもらいたい。
- ・ 重視したいことは、教職員同士の学び合いである。
- ・ 「同僚性を生かした校内研修の充実」を実現するために、教科の枠を超えた互見授業や O J T による指導の向上を図っていく。
- ・ 学び合いは授業づくりだけではなく I C T という部分でも必要。村では児童生徒一人 1 台のパソコン環境をつくっていく予定なので、I C T を教員同士が学び合わなくてはならないと考え、O J T の手法を取り入れる。

「人間性・社会性の育成」について

- ・ 新しい学習指導要領において、資質・能力の育成が叫ばれているのでキャリア教育を重視する。そこで「協働集団による生徒活動の推進～地域との積極的な連携・協働とキャリア教育の充実（S D G s）～」を挙げた。次年度は S D G s を今年以上に深めていきたい。（村でもこの考えを取り上げていく計画である。）

「自己指導能力の育成を目指した積極的な生徒指導の推進」について

- ・ 今まででは情報モラル教育の充実に力を入れて進めてきたが、それを拡大させ、メディアリテラシー教育（活用する能力を高める教育）を充実させたいので変更した。主体的・能動的に伝える力を育成していく。

「心身の健康増進と安全指導の充実」について

- ・ 「体力の向上及び心身の健康保持増進」→「運動・食事・睡眠」を意識した望ましい生活習慣の確立
- ・ 本校も「早寝・早起き・朝ご飯」を推奨している。家庭における各種メディアの利用との関係もあるが、不規則な生活を改善するために、村が取り上げている「運動・食事・睡眠」を意識した望ましい生活習慣の確立に、各自がより意識して取り組むようにさせたい。

【社会に開かれた教育課程を実現し、地域と共に歩む学校づくりに努める】について

- ・ 家庭や地域との連携をさらに強化していく中で、地域への子どもたちの参画を重視していきたい。→自己達成感や自己有用感を高めることにつながる
- ・ 「学校や地域の実態を踏まえた学校の特色を生かした教育課程の実施・改善（カリキュラム・マネジメント）」を意識しながら進めていきたい。

③ 意見交換 → 承認

- ④ 学校評価の結果が、経営・運営ビジョンに反映されているのがよく分かった。意見や感想等があったらお願いしたい。

- 子どもを第一に考えていると感じた。大玉村の将来を担う子どもたちが、誇りをもって生きぬく力をつけてほしいと思う。C S 委員として色々な活動に関わっていききたい。
- C S に関わってよく分かったことだが、校長先生を始めとして先生方が頑張っていて素晴らしいということである。
- アンケート集計結果で、子ども・保護者・学校のギャップが大きいのではないかと思った。ギ

ヤップを縮めていくことが大切ではないか。そうしないと、子どもたちが一生懸命やっていると
思っているのに空回りしたりするのではないかなと思う。それにしても、先生方は色々な面で大変だ。

㊤ 様々な意見・感想に感謝。承認の方に移るが、承認される方は拍手をお願いしたい。

<拍手多数>

㊤ 承認。では、ここで、修学旅行について大玉中学校の鈴木校長先生からどうぞ。

- 次年度の修学旅行についてだが、新型コロナウイルスの関係で、現在の所どのようにするかは
決まっていない。学年保護者会を開いて、十分な意見を聞きながら決定していきたい。(実施、
中止、延期)

(2) 第1回おおたまコミュニティ広場反省

① アンケート集計結果、フリートークでの意見から

ア フリートークでの意見から (事務局 指導主事 斎藤 一範)

～略～ 資料に基づき説明

イ アンケート集計結果について (事務局 CSディレクター 佐藤 勇人)

～略～ 資料に基づき説明

② 意見交換(次年度以降の内容・運営について)

- これら(コミュニティ広場で出た提案)が全て形になったら、明るく賑やかな村になると思う。
子どもたちの提案の一つでもいいから実現できるようにしたい。
- (子どもたちの提言に対して)次はCS委員会や大人が動いて形になるといいと思う。また、
教職員の前向きな感想が多くほっとした。昨年度は「時間がない」「大変」等マイナスの意見が
多かったので心配だったが、プラス思考で終われて良かった。地域の未来のために子どもたちが
動く(調査したことをもとに提言する)形態にしたことで、意識が変わったのではないかなと思った。
- 小・中学生の考えはひたむきで、素晴らしかった。要望だけで終わったのでは意味がないので、
何でもいから一つでも実現させたいと思っている。
- 先生方は、発表時までの指導はもとより、フリートーキングの際に各グループにいて、子ども
たちが話し合いに入り、話せるよう支援してくれていた。素晴らしい配慮だった。
- 今年度初めて関わったが、大人が行動を起こさなくてはならないと感じた。また、今回これだ
け素晴らしい事業になったので、次年度の方向性をどのようにしたらいいか難しいと思う。成人
式で実行委員会をつくって活動しているとの話も聞くので、高校生や大学生の年代の人の意見も
聞いてみたい。

(3) 令和2度おおたま学園CS委員会の運営について (事務局 指導主事 斎藤 一範)

① 令和元年度おおたま学園CS委員会を振り返って

～略～ 資料に基づき説明

② 基本方針(案)年間計画(案)説明

- 地域学校協働本部と連携・協働した教育活動を推進し、地域と共に歩む学校の実現、地域コ
ミュニティの活性化等を目指す。
- オープンスクール(おおたま学園主催の授業研究会)に、CS委員の皆様も参加し、各校園
の学校運営協議会をその当日夕方に行う。このことにより、子ども理解・学校理解のより一層
の深まりとともに、それらに基づいた協議の活性化を目指す。
- 学校関係者評価を実施し、学校経営・運営の改善のサイクルが有効に機能するようにする。
- 第2回おおたまコミュニティ広場(第12回大玉村教育フォーラム)は、保護者、村民の方々が年
に1回集い、教育・子育てについて語り合う場として実施する。その際、保護者、村民ができ
るだけ多く参加できるよう、呼びかけ・周知を図る。
なお、内容・方法については、CS委員会において協議する。限られた時間で協議が深まる
よう運営方法を工夫する。
- 学校が主体となって企画するおおたま・オータム・フェスタ(第4回)の運営に参画し、ね
らいの達成に寄与する。

令和元年度の活動実績と令和2年度の計画（案）

令和元年度（実績）			令和2年度（案）
月	日	会議・主な活動	会議・主な活動
4	16	第1回役員会 ・第1回CS委員会運営・内容等検討 ・おおたま・オータム・フェスタについて ・地域学校協働活動事業について	
5	13	第1回CS委員会 ・委員任命・学校関係者評価委員委嘱 ・年間計画（CS委員会運営・内容等） ・各校・園から ・おおたま・オータム・フェスタについて ・地域学校協働活動について	5/12（火）第1回CS委員会 ・年間計画（CS委員会運営・内容等） ・地域学校協働活動について ・各校・園が重点的に取り組むこと
6	25	第2回CS委員会（玉井幼・小学校運営協議会） ※オープンスクール実施	6/23（火）第2回CS委員会（大山幼・小学校運営協議会） ※オープンスクール実施
7	9	第3回CS委員会 ・おおたま・オータム・フェスタ実施案の確認及び検討 ・小グループによる熟議～教育フォーラムのもち方について～	7/7（火）第3回CS委員会
9	6	第4回CS委員会（大玉中学校運営協議会） ※オープンスクール実施	9/4（金）第4回CS委員会（大玉中学校運営協議会） ※オープンスクール実施
9	28	おおたま・オータム・フェスタ（小中）運営・参画 10/11（金）おおたま・オータム・フェスタ（幼）運営・参画	10/3（土）おおたま・オータム・フェスタ（小・中）運営・参画 ※予備日10/4（日） 10/9（金）おおたま・オータム・フェスタ（幼）運営・参画
10	8	第5回CS委員会 ・小グループによる熟議～教育フォーラムを中心に～ ・ふくしま学力調査、全国学力・学習状況調査結果説明	10/6（火）第5回CS委員会
10	15	*田村市学校運営協議会 CS 研修視察（行政説明）	
11	12	*舟形町教育委員会 CS 研修視察（行政説明）	
11	26	第6回CS委員会（大山幼・小学校運営協議会） ※オープンスクール実施 臨時役員会	11/27（金）第6回CS委員会（玉井幼・小学校運営協議会）※オープンスクール実施
12	9	第7回CS委員会 ・講話「学校評価の意義と評価委員会の役割」（講師 福島学院大学教授 渡辺博志氏） ・小グループによる熟議～令和2年度各校・園の学校運営方針（案）について～ ・教育フォーラムの名称・内容について	12/9（水）第7回CS委員会
1	14	第8回CS委員会 ・小グループによる熟議～令和2年度おおたま・オータム・フェスタ及びCS委員会の運営について～ ・第1回おおたまコミュニティ広場（第11回大玉村教育フォーラム）最終打合せ	1/14（木）第8回CS委員会
2	1	第1回おおたまコミュニティ広場（第11回大玉村教育フォーラム） ・小・中学生の発表 ・フリートーク	2/（ ）第2回おおたまコミュニティ広場（第12回大玉村教育フォーラム） 2/（ ）第9回全国コミュニティ・スクール全国大会 栃木県栃木市
1月～2月		各校園ごとに学校関係者評価実施 大玉中… 1/31 玉井小… 2/5 玉井幼… 2/6 大山幼… 1/28 大山小… 2/10	1月～2月学校関係者評価実施 各校・園委嘱の学校関係者評価委員が行う。各校・園毎に日時設定
2	25	第9回CS委員会	2/25（木）第9回CS委員会

	・コミュニティ広場反省 ・学校関係者評価報告 ・学校運営方針→承認 ・R2計画（CS委員会の組織、運営等）	・コミュニティ広場反省 ・学校関係者評価報告 ・学校運営方針→承認 ・R2反省・R3計画
--	--	---

- 6、9、10月実施の各校・園主体の学校運営協議会は、オープンスクール（5校時の授業参観）と一緒にやる。そのため、午後から夕方にかけて開催する。（授業参観一事後研究会－学校運営協議会の午後半日の予定）
- 希望者あるいは代表者の研修の機会を位置づけたい。
- CS委員の任期は2年のため、役員の改選は行わない。

③ 意見交換

- CS委員になって3年目になる。学校関係者評価に関わらせてもらっているが、その機会に、先生方からいろいろと話を聞いて感謝している。また、先生方の努力や苦勞がよく分かり、感謝の気持ちでいっぱいである。
- CS委員2年目であるが、（行政区長会の）充て職として所属しているが、様々な役職と重なり毎回出席できなかった。（充て職はなくした方がいいのではないだろうかとも思うが…。次年度は新しい副会長に務めさせていただく予定になっている。）
 これまでは、授業参観に出るだけで、学校関係のことはよく分からなかったが、今回CS委員になって色んなことが分かってきたし、学校関係者評価委員会等に参加して、先生方の様々な苦勞や保護者との関係等についても知ることができた。親としての自覚が不足している保護者もいる。教職員の苦勞を伝えることも必要と思う。
- 今年度は、CS委員としてやれたことが少なかったように思う。子どもたちが一生懸命頑張っていること、先生方がそれをしっかり支えているということを知ることができた。CS委員として、地域住民や保護者にそれを伝えたいと思っている。「CS委員として何ができるのか」が今後の課題であると思う。
- CS委員1年生として感じるが多かった。CS委員として考えることと保護者として考えることは違って、複雑なところもある。CS委員の新しいメンバーに保護者を増やしていくとよいのではないか。集まりは多いが、現役でこれやることでとても勉強になると思う。自分自身今これを知ることができたことはよかった。
- 3年間CS委員を務めた。中学校の評価委員会の委員長ということで、内容について細かい所までは分からないが、大事な部分は理解することができた。普段、先生方や教育委員会の方々と接することはないのだが、CSを通して教育の話ができるので個人的にはメリットが大きかった。
 商工会青年部推薦で務めさせていただいたが、来年は別の者を推薦したいと思っているので内容についても伝えていきたい。
- コミュニティ・フェスタは、本来であれば小・中・高校生、できれば大学生まで含めてできればいいと思っていたが、募集時期や期間の関係でそれが難しかった。また、イベントは8月に行ったが、暑すぎて熱中症の恐れもあるので、文団連とも相談しながら、11月の文化祭の時にやるかどうか検討している。今年度は中学校3年生がメインで実施したが、その子たちも4月から高校生になる。今後は様々な世代につなげていけるようにできたらいいと思っている。
- コミュニティ・フェスタは、ぎりぎりの予算とメンバーという中で、何とかやっている状態である。まわりの理解と協力が必要であるのでよろしくお願いしたい。（教育委員会も）
 CS委員をして感じることだが、最近子育てに興味がない保護者が増えているように感じる（保護者アンケートの家での読書や読み聞かせについての問いで、「あまり取り組んでいない」と答える親が多い）。支援（保育料、学費 etc.）が手厚いことで、親の責任が減っている感がある。
- 子どもの教育は、長い目で見ていくようにしたい。人をつくるのは簡単ではない。学校の先生方も大変ではあるが、他にも（地域の）いろんな年代の人が関わって教育をしていけるといいと思う。

(6) その他 特になし

6 今年度の総括

(CS委員会会長 伊藤 和弥)

- 皆さんのおかげで、年間を通してとても楽しいCS委員会であった。
- (教育長の資料にもあったように) 自転車に例えるなら、後輪は地域学校協働活動で推進する力であり、私たちCSはハンドルで、間違わないよう進む方向を示すという役割である。1年間を振り返ってみると、その時々に応じて問題点や改善点について話し合うことができた。
- 来年度に向けてさらに発展できるよう進めていきたいと考えている。

7 その他

特になし

8 閉会の言葉

(CS委員会副会長 吉田 都)

1年間ありがとうございました。これで第9回CS委員会を終わりたいと思います。ありがとうございました。



1年間大変お世話になりました。今後も学校と家庭、地域をつなぐ架け橋となっていadak
くようよろしくお願いします。